

第4回 伊豆市総合計画審議会 会議要録

日 時 令和7年10月27日（月）午後7時00分～

場 所 本庁舎別館 大会議室

出席者 ○伊豆市総合計画審議会委員（10名）

山田健次会長、高橋いづみ副会長、青木加奈委員、浅田恵子委員、飯田正志委員、木口博子委員、勝呂克彦委員、勝呂義衛委員、鈴木智治委員、服部保江委員

1. 開会

2. 会長挨拶

本日は最終案の手前段階として、全体の内容を確認し、必要な修正を反映したうえで、最終的な方向性を確認したいと思う。本日も委員の皆様には、忌憚ない意見を頂戴したい。

3. 議事

（1）基本構想（案）について 【資料1】

資料1について事務局より説明。以下意見交換。

（会長）

事務局案では、めざすまちのテーマに対して、説明文章を追加する構成としている。めざすまちのテーマについては、事務局案としたいがいかがか。

（一同）

異論なし。

（2）基本計画（案）について 【資料2】

資料2について事務局より説明。以下意見交換。

（会長）

商工会として現場で企業の皆さんと話す機会が多いが、最近は創業から3年以内の若い事業者が増えつつある。一方で、高齢の事業所では「もう辞めたい」「後継者がいない」といった声が大半である。移住希望者も一定数いるとはいえ、物件不足などの制約もあり、なかなか新規開業が進みにくい状況である。また、上水道などの公共インフラ整備に関わる職人や小規模事業者も減少している。「地元の工務店がない」「水道屋が高齢化している」といった声も聞く。こうした人材の不足は今後さらに深刻化すると思う。単なる将来像ではなく、短期的に具体的な手を打つ必要があると感じる。

（委員）

質問であるが、資料24～25 ページ上段の「企業誘致や雇用創出に向けた取組の強化」という項目について、施策の評価指標が「補助金交付件数」に変更されている。この変更の趣旨を知りたい。

(産業部)

補助金を通じた支援実績を指標化し、件数を増加させていく方向で修正した。従来の「企業立地数」では実際の事業効果が見えづらいため、「補助金の活用件数」を明確な成果指標として設定したものである。創業補助金の活用は一定程度あるが、補助を受けずに創業している者も存在し、実際の創業件数との差が生じる可能性はある。

(会長)

次回の第5回審議会が最終回となる認識で良いか。

(事務局)

その認識で良い。

(委員)

森林を管理ができなくなった際にメガソーラーの開発が実行されるケースがある。そのようなことがないように、市で責任をもって開発規制を行うことを計画に記載ができないか。特に開発関連の指標では「グレーゾーン」が多く存在していると感じている。「小規模なものを複数に分けて進める」など、規制の抜け道のような動きが起きないように、行政として厳格に対応してほしい。

(建設部)

現時点で正式なメガソーラーの申請はないが、小規模な案件であっても、全体として一体的な開発とみなす場合は、適正な申請・審査を行うよう徹底している。

(委員)

グーグルマップなどで上空写真を見た際にメガソーラーが目立つ地域も多く、未来に森林を残す主旨でもお願いしたい。

(委員)

資料を見て感じたことであるが、将来人口の設定が令和42年に13,600人、現在の約半分となっている。このように大きく人口が減少する中で、これまでと同じ施策を続けていくのは難しいのではないかと。例えば、農業やわさび産業など、現状維持の記述が多い印象である。「守りながら変わる」というのであれば、例えば海外販路の開拓など、新たな展開を戦略的に示す必要があると考える。このままでは「継続するだけ」で終わってしまい、将来世代への責任を果たせない。子どもたちにも責任がとれないと思う。

(委員)

私も同感である。「守りながら変わる」と言いながら、実際には何を守り、何を変えるのかが具体的に示されていない。文章としては整っていても、誰がいつまでに何を実行するのが明確でない。単なる理念で終わらせず、実行性を伴う計画とするべきである。地域の人手不足や高齢化、介護人材の不足など、現実的な課題を踏まえた施策が必要である。理想を掲げるだけでは、市民に対して誠実ではないと考える。

(委員)

総合計画のため、えてしてこうした内容になると感じている。できることだけ抜き出すほうが難しいとも考える。むしろ、これから実行計画がどのように具体化されるかを注視する必要がある。たたき台としての基本計画としては理解できるが、実行段階での追跡と評価が不可欠である。

(委員)

前回の審議会とは別件で欠席して、今回参加している。めざすまちのテーマが「守りながら変わり続けるまち」となっているが、前々回に議論したにも関わらず変化していない。委員会内での意見が本当に反映されているのか疑問に思う。めざすまちのテーマは良いが、これを実際の行動へ落とし込む仕組みをどう設けるかが問われている。単なる作文ではなく、現場に浸透する計画であることを期待する。

文化・芸能の継承について一言申し上げる。私は地元で伝統芸能の保存活動を行っている。しかし、担い手の高齢化や人口減少により、あと 10 年もすれば存続が危ぶまれる状況である。隣接市では複数の保存会で文化継承されているが、当市では数か所のみとなっている。こうした文化資源を守る取組みも計画の中で明確に位置付けていただきたい。金銭的な支援を求めているわけではなく、「守りながら伝える」ことを行政が後押ししてほしい。市民への広報や学校との連携など、意識を高める施策を期待している。

(委員)

農業分野において「管理が行き届かない農地が増加している」と課題の記載があるが、施策の方向性でどのように対応する想定としているのかがわからない。現場では後継者不足や資金面の制約もあり、個人で規模拡大を進めるのは現実的に難しい状況である。株式会社化なども一案であるが、より具体的に「何を支援するのか」を明示することで、実効性が高まると考える。理念ではなく、行動につながる文言とすべきである。

(委員)

P22 の総合戦略の記載が所管課と被っているなど、いくつか誤植が見受けられる。最終版では修正をお願いしたい。総合計画は、現実的なものでなくても、市として実施すべきと考える事項を書き込むことで良いと考える。全体的に計画はよくまとまっている。ただし、計画を作成すること自体が目的化しないよう効果測定の実施に留意してほしい。国の政策や法制度も頻繁に変化しており、それに応じた短期・中期的な見直しが重要である。人口減少は避けられないが、地域資源を守ること競争力を維持することは可能である。特に地場産業や人材育成については、持続性を意識して取り組む必要がある。

(委員)

歴史や文化を子どもたちにどのように伝えていくかは、人口減少対策にも関わる重要な課題である。知る機会が減少している中、学校教育や地域活動を通じて伝承の場を設けることが大切である。「減らない」ことは難しいが、「誇りを持って暮らし続けられる地域」をつくることは可能である。

(副会長)

これまで皆で真剣に議論を重ねてきた内容が盛り込まれており、基本計画としては良い方向性であると評価する。特に「守りながら変わる」というテーマは、自然や文化を守りつつ、開発や変化との調和をいかに図るかを示すものであり、重要な視点である。開発を進める際には、論理的な整合性と慎重な判断が求められるが、この理念を軸に実行段階での検証を丁寧に進めてほしい。期待している。

(会長)

私個人としては、この内容に概ね満足している。計画はあくまで指針であり、実際に行動するかどうかは私たち地域住民の姿勢にかかっている。行政任せにするのではなく、地域が主体的に取り組む必要がある。70代の私たちには、次の世代に伝える責任がある。そのためには、行政と対話をしながら協働していく姿勢が重要と考えている。その対話の基盤がこの計画となれば良い。

本日は、皆様に意見をいただいた。事務局には、反映できる内容があれば、反映してほしいと思うが、パブリックコメントを行う案としては、事務局案とすることをご承認いただけるか。

(一同)

異議なし

4. その他

5. 閉会

以上